

事業コード	H21-建-継-03		区 分	国庫補助 県単独
事業名	広域河川改修事業		部局課室名	建設交通部 河川砂防課
事業種別	広域河川改修事業		班 名	河川・海岸・防災班 (tel) 018-860-2515
路線名等	淀川		担当課長名	藤田 博美
箇所名	大仙市協和下淀川		担当者名	主幹(兼)班長 小松 武
総合計画との関連	政策コード	16	政策名	快適で災害に強い生活基盤づくり
	施策コード	02	施策名	災害に強い県土づくりと社会資本の長寿命化
	指標コード	01	施策目標(指標)名	浸水被害対策戸数(累計)

## 1. 事業の概要

事業期間	H02 ~ H32 (31年)		総事業費	88.0億円	国庫補助率	1/2
事業規模	計画流量600m <sup>3</sup> /s 計画延長L=14,150m 築堤L=28,300m 掘削V=1,548,000m <sup>3</sup> 護岸工A=28,900m <sup>2</sup>					
事業の立案に至る背景	淀川は一部堤防が存在するものの、ほとんどが無堤区間であり、河積が狭小かつ蛇行している。そのため、洪水に見舞われれば、すぐに氾濫し、その被害は甚大なものとなっている。近年においても、出水被害は絶えず、溢水により農地冠水被害が頻繁に発生している。また、本川雄物川の背水による被害も大きく、早期の築堤が必要である。					
事業目的	本事業は河川改修を実施することで、洪水氾濫による災害を未然に防止し、住民の生命と財産を守るものである。					
事業費内訳 事業内容 (単位:千円)			計 画 時	評 価 時	増 減	理 由 等
	事業費		8,800,000	8,800,000	0	
	経費 内訳	工事費	6,730,000	6,730,000	0	
		用補費	1,500,000	1,500,000	0	
		その他	570,000	570,000	0	
	財源 内訳	国庫補助	4,400,000	4,400,000	0	
		県債	3,960,000	3,960,000	0	
その他		0	0	0		
一般財源		440,000	440,000	0		
事業内容		河道掘削、築堤、橋梁、排水工、用地補償	河道掘削、築堤、橋梁、排水工、用地補償費			
事業の進捗状況	雄物川合流点から淀川上流に向かい、用地買収及び築堤工を実施している。平成20年度末における用地買収率は36%となっており、工事の進捗率は11%となっている。					
事業推進上の課題	特になし					
関連する計画等	あきた21総合計画において、河川の氾濫から人命や財産を守り、災害に強い県土をつくる河川改修の推進に位置づけられている。					
情勢の変化及び長期継続の理由	用地取得に期間を要している。しかし、過去の洪水による浸水被害が発生しており、地元からの改修要望が高く、早急に改修を促進する必要がある。					
事業効率把握の手法及び効果	指標名	河川整備率				
	指標式	河川整備率 = 改修延長 / 要改修延長				
	指標の種類	成果指標	業績指標	低減指標の有無	有 無	
	目標値 a	44.8 %		データ等の出典	県河川砂防課	
	実績値 b	44.9 %				
達成率 b/a	100.2 %		把握の時期	平成21年3月		

前回評価結果等	選定または継続 改善 見直し 保留または中止
	指摘事項
	特になし
	指摘事項への対応
	特になし

## 2. 所管課の自己評価

観 点	評 価 の 内 容 ( 特 記 事 項 )	評 価 点
必 要 性	蛇行が著しい原始河川で、過去においても頻繁に洪水被害が発生しており、一般資産被害が絶えない状況にある。また、本川雄物川の背水による被害も大きく、引き続き、事業の促進を図り、洪水被害を防止する必要がある。	26 点
緊 急 性	災害記録からも本川の影響による洪水被害は甚大であり、S62年8月洪水をはじめ、H8年、10年、13年、14年に公共及び一般資産被害が発生するなど洪水被害を受けている。H16年7月にも67.3haの冠水被害が発生している。またH19年9月の災害では家屋浸水2戸の被害が発生していることから、早急な対策が必要である。	15 点
有 効 性	( 整備効果 ) 蛇行している河川に築堤、河道掘削により河川の断面を拡幅することで、洪水を安全に流下させることが可能となる。	12 点
効 率 性	( 費用対効果 ) 事業の費用便益比は1.64であり、効率性は高いと言える。 ( コスト縮減の取組み状況 ) 排水樋管の統合や、他工区残土を築堤材料として使用することで、コスト縮減に努めている。	15 点
熟 度	( 地域の状況 ) 地元の河川改修に関する意向が強く、早期に改修を進める必要がある。 ( 環境対策 ) 淀川は多種の河畔林が繁茂した原始河川であることから、河川域を中心とした多様な生態系が良好に保全されているため、工事に際しては早期の復元が可能なブロックを使用するなど環境に配慮している。	13 点
判 定	ランク ( ) 地元からの要望は高く、「必要性」「緊急性」「効率性」等から事業の重要性は高く評価できる。	81 点
総 合 評 価	継続 改善して継続 見直し 中止 事業継続は妥当である。	

## 3. 評価結果の当該事業への反映状況等(対応方針)

引き続きコスト縮減に努めながら、事業を継続する。

## 4. 公共事業評価専門委員会意見

県の対応方針を可とする。

評価種別 継続箇所評価  
適用基準名 河川改修事業

事業コード (H21-建-継-03 )  
箇所名 (大仙市協和下淀川 )

1. 評価内訳

観点	評価項目 細別	評価基準	配点	評価点	摘要
必要性	想定氾濫区域内の状況 浸水戸数	50戸以上	10	10	
		49～10戸	7		
		10戸未満	3		
	浸水面積	60ha以上	10	10	
		59～10ha	7		
		10ha未満	3		
	重要な公共施設	3施設以上	5	3	
		2～1施設	3		
		無し	0		
	整備計画の策定 関係者、関係機関との調整		整備計画策定済み	5	
		協議中であるが特段問題ない	3		
		策定に着手していないが予定がある	1		
		予定無し	0		
計			30	26	
緊急性	災害発生危険度 改修目標流量に対する現況流下能力	40%未満	10	10	
		40～59%	7		
		60%以上	5		
	秋田県水防計画 重要水防地域	評定基準区分A	5	5	
		評定基準区分B	3		
計			15	15	
有効性	上位計画への貢献度 あきた21総合計画	施策目標の中核事業であり貢献度が高い	5	5	
		施策目標に間接的に貢献する	3		
		施策目標とは別のその他関連事業である	0		
	河川整備の有効性 安全度	災害防止等効果が発現する	7	7	
		災害防止効果は現状と変わらない	0		
	親水性	安全に川と親しむ場として利用が見込まれる	5	0	
		親水性は現状と変わらない	0		
地域開発の状況	都市計画区域の存する地域	3	0		
	地域開発の計画がある	1			
計			20	12	
効率性	事業の投資効果 費用便益比(B/C)	1.0以上	5	5	
		1.0未満	0		
	事業実施コストの縮減 該当項目数	3項目以上	5	5	
		2項目	3		
		1項目	1		
	当初計画との比較 当初計画事業費からの縮減	減少または10%未満の増加	5	5	
10%以上30%未満の増加		3			
計			15	15	
熟度	環境との調和への配慮状況 環境保全への配慮	十分に配慮されている	5	5	
		配慮が不十分で検討している	3		
		特に配慮はない	0		
	地元との合意形成の状況 地域住民の事業実施の意向	意向が強く要件の同意をクリアしている	5	5	
		意向が強く要件の同意を概ね得ている	3		
		意向が一部で強いがまだ要件の同意は得ていない	1		
事業の進捗状況 進捗率	計画より進捗している	10	3		
	概ね進捗(90～100%未満)	5			
	計画より遅れている(90%未満)	3			
計			20	13	
合計			100	81	

2. 判定

ランク	判定内容	配点	判定	摘要
	優先度がかなり高い	80点以上		
	優先度が高い	60点以上～80点未満		
	優先度が低い	60点未満		